

# イラストレイテッド 光の科学

大津元一【監修】／田所利康・石川謙【著】

定価 本体3,000円＋税



なにせタイトルが「イラストレイテッド光の科学」である。ただの「光の科学」ではないのだ。著者らがこだわるそのタイトルの通り、本を紐解いてみれば、美しいイラストや写真が目飛び込んでくる。それらをただ眺めているだけでも十分楽しいのだけれども、こだわりはそれだけではない。身の周りの自然や街角の風景から始まる各章の内容は、妥協のない、まさに「光の科学」なのである。それも、数式を用いないと言う約束を守りながら。干渉や屈折などの光の振る舞いを数式なしに説明することは難しいことなのだけど、この本では見事な写真やイラストと説明文を駆使して、それを成功させている。数式を用いない分、むしろ光のふるまいの本質が余計に際立っていると言っても良い。はっきりいって、内容はけっこう高度である。だからこの本は、光を一通り勉強したことがあるけども何だか数式に騙されているようで釈然としない、という人に最適な一冊ではないかと思う。そして、この本を読んだ人には、ぜひ家族や友人、恋人などに知ったかぶりをしてほしい。相手は少し引くかもしれない。そのとき、この本をさっと取り出して美しいページを開いてみれば、楽しい光の科学の世界と一緒に没入していくことができるだろう。実は、それこそこの本のたくらみではないかと、僕はにらんでいるのだが。

評・月谷昌之介（月刊OPTRONICS コラム「ひかりがたり」著者）